

AIと監査

外賀友明
宮村祐一
岸純也
森孝志
CMA

目次

1. はじめに
2. 業務効率を向上させるAI
3. スキル・対応力を拡張するAI
4. 監査業務におけるAI活用の広がり
5. 終わりに

気候変動や地政学リスクの増大などによって企業を取り巻く環境の不確実性が高まり、企業が向き合うリスクや課題が複雑化する中、企業が開示する様々な情報の信頼性確保のため監査への期待が増している。AIはその期待に応えるための有力なソリューションであり、監査の効率性および品質向上に効果を発揮する一方、限界や課題もある。本稿では、会計監査におけるAIの活用事例を紹介しながら、AIの適用可能性や監査業務に携わる公認会計士などの専門家人材に求められるケイパビリティについて考察を加えた。



外賀 友明 (げか ともあき)

有限責任監査法人トーマツ 監査・保証事業本部パートナー。2001年10月監査法人トーマツ（現有限責任監査法人トーマツ）入社。公認会計士。上場会社の監査業務を経て、アナリティクス・AI（人工知能）のみならず、デジタルツールの企画・開発・導入を推進・リードするAudit Innovation部部長、2020年8月より現職。



宮村 祐一 (みやむら ゆういち)

有限責任監査法人トーマツ シニアマネジャー。電機メーカーにて言語処理・知識処理技術の研究職を経て、2017年5月有限責任監査法人トーマツ入社。



岸 純也 (きし じゅんや)

有限責任監査法人トーマツ シニアスタッフ。2016年3月有限責任監査法人トーマツ入社。公認会計士。日本証券アナリスト協会認定アナリスト。『ゼロ知識証明入門』（翔泳社、2021年）を共同執筆。



森 孝志 (もり たかし)

有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザー事業本部パートナー。大手監査法人、海外オフィス勤務等を経て、2014年1月有限責任監査法人トーマツ入社。